語註・典故・作詩メモ	結句	転 句	承句	起句	- 詩	
早牽繁朝露牛陰來	涼。	籬。	獨 •	朝。	題	神奈川
朝花 し朝。	風。	落•	探・	來。	夏朝	川県漢
に でか はげ	葉・	牽○	繁○	門〇	開步	詩連明
朝。	戦 •	牛○	陰○	外•		県漢詩連盟九詩
	脚・	開〇	欲・	夏・		期会
	猶○	早•	緩•	光〇	庚	(七言絶句
	輕◎	露・	行◎	明◎	韻	一 一 句)
その他のメモ		読 み	下	文		作平仄式
足はなお軽やかである。 (散歩道の)生垣には、朝顔がれり繁った木陰を探しては、ゆ顔がれている。	京風に葉は戦ぎ 脚猶	離落の牽牛 早露に開き	独り繁陰を探し緩行	朝来門外夏光明なりて	夏朝閑歩	日 令和四年七月二日 名前
る。 門の外は既に夏の太陽が眩しいので、 しては、ゆっくりと歩いていこうと は、朝顔が朝露に花を開いていて、 は、朝顔が朝露に花を開いていて。	脚循は軽し	¥.	緩行せんと欲す	かて		牛山 知彦

	令和四年九月	作 诗日
宇野次郎	平 起 式 名前	平仄式

	令四・七提出	作詩日
岡嶋宣	名前	平仄式

	結 句	転句	承句	起句	址	
	何〇	池。	眼・	雨・	詩題	
	處•	邊〇	前。	後●	七月	
	微○	暁●	翠•	紅〇	夏朝閑歩	
	聞。	歩●	蓋●	衣○	步	
	柔。	~~ ·	得●	霑○		
	櫓●	情。	風○	露●	庚	(七言絶句)
	聲◎	爽•	清◎	重・	韻	起句)
その他のメモ				la an		作詩
	何れの処からか 微かに聞く 五	池辺 暁歩すれば 心情爽やかに	眼前の翠蓋 風を得て清し	雨後の紅衣 露に霑いて重く	夏朝閑歩	时日 令四·七提出
	柔櫓の声	1=				

七言絶句)

作 平 詩 仄 日 式 平 令 和 起 四 年 式 セ 月 名 前 高 橋 幸 雄

	R 4	作詩日
武田	平起式一名前	平仄式

註・典故・作詩メモ	結 句	転句 承句	起句	詩
孺棟薄犂残 子甍暑明夢	曳・猛	薄●	覚●	題
子とうぼりの頃見果てぬ夢	第○ 子	暑 -	醒。	夏朝
: 棟 の	畦 ○ 遊	Ĕ O 薫 O	残。	料 歩
党	道●聲	生 0 風 0	夢・	
	一●催	度●	識●	
	身〇外	- • 棟 •	犂○	庚
	軽◎ 出	、● 甍◎	明◎	韻()
その他のメモ	読	4 F 1	L X	作詩
催すは「うながーす」とも読む	曳き畦道を	電子の遊びと からか もたる はいしょ くんぶう かね 棟の甍を度 はいしょ の甍を度	覚醒 残夢 犂明を識がなせい 残夢 犂明を識	日 日 日 日 日 日 日 日 日 日

注・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩	N.L.
〇白 如 媒 花 社	聴○	胡○	杉〇	早・	題	神奈川
花・・・ ・・・ シ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	鵑○	蝶•	樹●	晨○	夏朝	県漢
ガに	信・	花。	森○	參 ○	過白	神奈川県漢詩連盟九詩期会
の花の別名	杖●	開○	閑○	詣●	山社	九詩
大巨杉樹:	肆●	明。	翳●	白•		- \
二大巨杉樹齡六〇〇年	清。	似●	社●	山。	東	一十言絕句
#	風	雪	叢	宮	韻	知 分
その他のメモ		読 み	下(文		作詩日式
	鵑を聴き杖に信せ清風を肆とす	胡蝶花開き雪のごとく明るし	杉樹森閑として社叢を翳う	早晨参詣す白山の宮	夏朝白山	令和四年
	に信せ	雪のごと	して社業	白山の宮	社に過ぎる	七月四日名前
	月風をい	しく明	を野ら	i di	3	Ail
	はとす	る し し	7			平賀康雄

では、	吾註・典故・作詩メモ	結句転句			承	承句 起句				.,	
一		清	0	停	0	夏	•	早	•	一	神奈川
一		風	0	杖	•	日	•	晨	0	夏朝	- 県漢:
一		残	0	遙	0	南	0	野	•	閑	詩連盟
一		月	•	望	0	薫	0	径	•		九詩期
唐 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「 「		満	•	雲	0	爽		鳥	•		会一转
# 「		池	0	不	•	気	•	声	0	陽	(七言語
清水 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で		塘	0	見	•	香	0	涼	0	韻	- 14
清水 で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	その他のメモ					涼					作平灰
		清風残月池塘に満	せいふう (ざんげつ ちょう)			夏日の南薫に爽気	かじつ なんくん そうき	早晨の野径に鳥声	そうしん やけい ちょうせ	詩題の読み	
				云見えず	<i>A</i>						古川
満つできまりますります。一日日は一日日は一日日は一日日は一日日は一日日は一日日は一日日は一日日は一日日											彌

語註・典故・作	作訴	手メモ	結 句 東		句 承句				起句		詩			
揺漾	糸糸	垂柳	葛	0	淺	•	垂	•	雨	0		題		神漢連
なし	柳の葉	しだれ	衣	0	瀬	•	柳	•	餘	0		夏		
の泳ぎ動		柳	扶	0	游	0	糸	0	早			夏朝閑歩		九詩期会
動くさま			杖	•	魚	0	糸	0	曉	•		梦		州会
			步	•	揺	•	白	•	冷	•				詩箋
			江	0	漾	0	露	•	如	0		尤	(七言絶句	
			頭	0	處	•	稠	0	秋	(o		韻	絶句)	
その他のメ	/ E	:]			読	2	, F		ι	文			作詩	平仄式
			葛衣杖に扶けられて	た す	淺瀬の游魚 搖漾の処	せ ゆうぎょ	垂柳糸々 白露稠し	り ゆ う し し	食の早時			夏朝閑歩	日 令和4年6月	TZ.
			江頭を歩す	こう と う		3							令和4年7月提出	松本祐輔

語註・典故・作詩メモ

句

結

転 句

承 句

起句

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式
令和三年七月十	仄 起 式
E	名前
	三浦昭二

語註・典故・作詩メモ	結句	転 句	承句	起句	詩	
盛晨	清●	遥。	遠●	灯。	題	神奈川
	晨〇	望●	近。	台〇	夏朝吉	県
	盛・	商○	蝉。	下。	開步	漢詩連盟
	夏・	船○	鳴〇	道•	(観)	
	世•	多〇	潮●	海・	音崎)	期会
	塵 ○	北•	気●	風○	陽	九詩期会【詩箋】
	忘◎	上•	香◎	涼◎	韻	紀 句)
その他のメモ	7	読み	F	し文		作,许八式
清晨・・・朝	夏の清晨	遥かに望む商船の北	遠く近くに蝉なき	灯台下の道 海風涼し	夏朝閑歩	式 平起式 名前
	世塵を忘れる	の北上多しを	潮気香ばし	ũ		森谷正彦

結	結句 転句		并	承句		起句		
高)	長	C	時	0	夏	•	詩題
天)	嘯	•	聽	•	朝	0	夏朝
-[•	•	古	•	鵑	0	野	•	開步
碧	•	詩	0	聲	0	径	•	
轄	Ö	開	0	三	0	爽	•	
3)	步	•	四	•	風	0	冬
胸)	處	•	峰	0	從	0	韻

その他のメモ 高		/, ,	1/2		
夏朝の野径東風従い高天一碧心胸豁く	その他のメモ		読.	4 F	L 文
		天一碧心胸豁	長嘯古詩閑歩する処	に 聴 く	夏朝の野径爽風従い

(七言絶句

夏朝閑步

平仄式 平起式 名前 諸星暢義

2021.07.19 第1.5版

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩	
○ ○ 緑紫 炭陽	微○	寂•	綠•	紫•	題	神奈川
豆 あ 類 じ の さ	風。	寂•	莢 •	陽。	夏朝	
豆類のさやに似た草木の実。あじさい	渡•	早•	搖○	變•	開步	県 漢詩連盟
た草木の	谷•	朝。	垂○	色•	ST 90 1	五九詩期 会
	暑●	人。	滕○	落●		期会
ここでは藤の	威。	未•	蔓 ○	花。	庚	(七言絕句
実(緑色	輕◎	起•	棚◎	争◎	韻	一 一
その他のメモ					S= 30 49	作詩日
おずかに風が吹き渡って 繋陽花は枯れ始め、花の 繋陽花は枯れ始め、花の ないので人の気配け	微風谷を渡って	寂寂たり早朝人	緑莢 揺れて垂るる藤蔓の	紫陽 色を変じて落花を争い、	夏朝開歩	2022年7月1
きなよ大てくう半	暑点	人まな	る。	落花		名前
に風が吹き渡ってきて、連日の暑さを忘れる。は、インゲン豆のような藤の実が揺れていた。は枯れ始め、花の大半は落ちていた。にでたところ)	暑威軽し。	人未だ起きず、	藤蔓の棚の	化を争い、		山口幸雄